

浜松市議会議員

田口 章 後援会  
だより

お気軽にどうぞ  
昼 053 - 447 - 3820  
夜 053 - 440 - 7100

平成 20 年 4 月 1 日

創ろう！元気な浜松

# 満開の桜の下、新年度スタート

## 浜松市議会「2月定例会」最終報告

3/21 に 2 月定例会が閉会しました。予算案を含め、提案された 103 議案のうち、1 議案が否決、1 議案が修正の上可決となりました。

予算の内容は、後援会報 3 月 1 日号と 3 月 17 日号で、中間報告 として報告していますので、そちらをご覧ください。(ブログ<創ろう！元気な浜松>の後援会だよりのコーナーからダウンロードできます)

修正可決された議案は、簡単に言えば「審議会の市民委員 (= 公募委員) の報酬を 8800 円から 3000 円にする」というもので、この部分を「現状どおり 8800 円に据え置く」と修正されました。

否決された議案は「区協議会・地域協議会の委員の“費用弁償”5000 円を廃止」し、前述の議案で提案された「3000 円の“報酬”に切り替える」というものでした。

その他の議案については、一部反対意見もありましたが、賛成多数で可決され、新年度の浜松市の主要施策がスタートしました。

私はすべての議案に賛成しました。今月号では、予算への賛成理由など「やすとも丸」2 年目に向けての「成果」と、議案審議の中でいくつか気づいた「課題」をまとめてみました。

### 平成 20 年度予算の概要(詳しくは 3 月号 を見てね)

#### 予算規模は ほぼ前年並

総予算は 4667 億円で、H19 年度の 4987 億円から微減。一般会計は 2668 億円と H19 年度の 2622 億円より微増ですが、実質的にはほぼ前年度並となります。

#### 財政健全化へ 借金は削減

企業会計や特別会計を含めた「総会計」の借金は 440 億円、返済は 532 億円。この結果、借金残高は、H19 年度末の 5550 億円から 5458 億円に、約 92 億円減の見込みです。「H26 年度末に 5000 億円未満」という、健全化目標に向け着実に進んでいます。

#### 支出の特徴は「市民生活の充実」

H19 年度に比べ「土木費」が減り、「民生費」「教育費」が増えています。福祉政策や教育の充実をめざす、やすとも市長の特徴といえます。



# 2 月議会を振り返って(成果と課題)

「行財政改革」を進め、  
「福祉施策」を充実させ、  
将来にわたって「元気な浜松」  
を創っていく…  
この施策が進展しています。

平成 20 年度当初予算案は、賛成 46、反対 7 で可決成立しました。

私は、大きく 3 つの視点から賛成しました。すなわち「行財政改革の推進」「子育て支援の充実」「元気な浜松の創造」の進展です。

としては「繰り上げ償還」や「補助金の見直し」などによるムダの削減を行っています。

そしてその成果を、の「こども医療費助成」「バースセンターの開設」などの子育て支援や「学校耐震工事の前倒し」「通学路の安全確保」や「学校支援員の充実」など教育施策に反映させています。

また「元気な浜松の創造」では、「企業誘致」「新産業の創造」「モノづくり新技術への支援」など、次世代に向けた種まきを進めています。

やすとも市長が初めて策定した予算であり、これらを改革の第一歩として評価し、H21 年度、22 年度と、さらなる熟成を期待したいと思います。

しかし、決して 100 点満点ではありません。予算審議や議案調査などでいくつかの課題も見えてきましたので、以下に 4 点記載します。

## 課題(1) 「情報公開」はまだ不十分

予算書や資料を見ただけでは、事業内容が不明なものが多々あります。「主要事業」については HP で内容を公開しているのですが、それでもまだわかりにくいです。

「主要事業」以外の事業内容に至っては、とりわけ新人の私にはわからないものばかりで、前年度の予算書や資料との対比、担当部門のヒアリングなど、いろんな調査をしましたが、時間がまったく足りませんでした。

事業内容については、やはり「現場」を見に行かないといけないな・・・ということを感じたのですが、同時に、情報公開の手法の改善を求めていく必要があると思っています。

鳥取県の HP では、予算策定過程が公開されています。事業内容も、前年比較で一目でわかるようになっており、財政課長査定から総務部長査定、知事査定の経過がわかります。

情報公開が進めば、事業評価もわかりやすくなりますし、ムダの削減にもつながります。

また仕事の見直しにもつながります。鳥取県では予算情報を公開する代わりに、行政評価(内部評価)をやめたそうです。

予算の情報公開については、今後、改善を求めていきます。

## 課題(2) 「目標管理」が必要

平成 20 年度の事業は、昨年 9 月に示された「戦略計画 2008 (案)」をベースにしたものです。「市長の施政方針」もこれがベースになっていました。

予算も事業も「戦略計画 2008 (案)」がベースになっているはずなのですが、「重点戦略」や「リーディングプロジェクト」でも、事業内容が不明確で、予算にメリハリがついていないものがたくさん見られます。

事業や予算に、「前年踏襲」がまだまだ多いと思われるます。

まだまだ「トップの意思が、担当部門にブレイクダウンされていない・・・」と感じました。

限られた「予算」「人財」で最大の成果を生み出すには、トップと職員一人一人のベクトルをあわせる必要があります。

その改善方法のひとつが「目標管理」です。民間企業では当たり前のこの制度、職員の人事処遇や評価を適正に行うためにも導入すべきです。

4 月中に、「戦略計画 2008」とともに「部局戦略計画」「区別戦略計画」が示される予定です。「戦略計画 2008」が、キチンと部門別にブレイクダウンされ、担当者の業務目標につながっているかどうか、チェックしていきます。

### 課題(3)

#### 「市民協働」の進め方

2月定例会の大きなテーマのひとつが「市民協働」でした。

今回提案された条例案に、行財政改革の観点から、「審議会委員を削減し専門性を高める(=知識経験者比率を高め、市民公募委員を減らす)」というものがあり、原案どおり可決したものの、11人が反対しました。

主な反対意見は、「市は『市民協働推進条例』で、『市政への参画機会をつくる』としており、条例に反する。」「市長は『市民協働』と言いながら、審議会委員から市民委員を減らすのは矛盾している」などです。

市は「パブリックコメントや市政モニターなど、市民参画の機会は増えている」と言います。

私は、自分自身も審議会に出ていた経験から、「知識経験者と言っても市民のひとりであり、市民の声が伝わらなくなるわけではない」「必要に応じて、いろんな方の意見を聞くなどの対応を取ればよい」と委員会で意見を述べ、議案に賛成しました。

とはいうものの、反対意見にも「一理ある」と思います。今や、やる気のある市民のみなさんの力を活かさずして、「元気な浜松」は創れません。「審議会への参画機会は減りますが、こんなカタチで市政に参加してください」という仕組みが必要です。

H19年度は市長自らが動いていました。

たとえば、市民と直接対話できる「チャット！やらまいか」というランチミーティングの開催や、「元気な浜松！懇談会」という市民の対話の機会が、8カ所で開催されました。

こうした活動の継続や、公聴(広聴)機能の拡充、さらに各部門で実施している「出前講座」の積極的な推進など、市としては、こうした仕組みの充実を進めなければいけません。

一方、こういう活動は「市当局だけがやればよい」という問題ではありません。もともと議員こそが市民の声を伝える役割をもつ「市民」なのですから、議員や議会が果たさねばならない責任は重大です。

三重県議会では出前講座を行い、市民との対話を実施しています。議会も市民協働の1セクターとなる必要があります。

### 課題(4)

#### 「ひとつの浜松」の現実

市長は「ひとつの浜松」をめざしてさまざまな取り組みを進めています。

しかし「市議会・行革特別委員会」や「行革審」では、「がんばる地域応援事業」の予算配分のあり方が議論になりました。

また、地域自治区(=旧市町村)の「まちづくり事業(=補助事業)」



市役所から見た浜松城公園

への助成には、「こんなモノにまで補助金を出しているの?」と言いたくなるものが見受けられません。

私は決して、地域自治区の「まちづくり事業」を否定するものではありません。

「地域おこし」の他、伝統芸能など「地域固有事業」や、地域特性を活かした事業など、納得性の高いモノもあります。

また、観光コンベンション予算に移管すれば、さらに幅広く観光客誘致を行え、地域活性化につなげられるのではないかと思える事業もあります。

しかし、中には「この税金の使い方」で82万人の納得を得られるのか」と考えさせられるモノもあります。市のHPをご覧いただければ内容が分かりますが、旧浜松市には無い補助事業が、旧11市町村で実施されています。

地域協議会は委員の任期が切れる2年後には廃止される方向です。私は、それにともない「地域自治区」のあり方も議論になると思っていますが、今後も情報公開を進め、市民が納得できる税金の使い方になっているかどうか、検討が必要だと思えます。



経済同友会 浜松協議会の「同友会経済サミット」に参加しました。テーマは「成長・醸成する『100万都市・浜松』をめざして」という壮大なものです。

もちろん、周辺市町村を合併しての100万都市創造ではありません。

「今の浜松を、今後どう発展させるのか」という視点の、興味深いシンポジウムでした。

基調講演は、川勝平太 静岡文化芸術大学学長。

座談会は、市内の有名企業の経営者がパネラーとして参加していました。

川勝平太 学長のお話は初めて聞きましたが、非常に興味深いものでした。とりわけ、これまでの近代日本の文明史論は分かりやすかったですし、それを踏まえた、今後の浜松文化のありようは、20年、30年先の浜松の姿を思い描くに、夢を与えるものであったと思います。

を簡単に説明します。まず質問です。

近世の日本の3都を「東京」「大阪」「京都」としたとき、文明史論的に、近代日本の3都はどこか？

川勝学長はこう言います。「京都」「東京」「金沢」だと。

「京都」は、奈良～平安～室町時代をとおして中国文化を模倣した都市であり、いわば「東洋文化(=京文化)」の街。

その後、戦国の世を迎え、信長、秀吉、家康を輩出した安土桃山の頃から、自立した「日本文化」が生まれた。たとえば「天守閣」の天守は、西洋の「デウス」の和訳であり、中国文明ではありえなかった文化だとのこと。その象徴が「江戸」。しかし、江戸は時代とともに変化し、今の東京は「西洋文化」の象徴となった。

そうした中、今も昔の江戸情緒(=日本文化)を残しているのが「金沢」。この3つが、これまでの日本の特徴的な文化都市だということです。

さて、それでは 将来に向けてはどうか、と言うことですが…、今後の都市像には、地球規模の文明に対応できる「第4の文化」の醸成が必要であり、これら全ての文化から自立した自由な都市が求められる。

既存の文明からの自立に必要なものは、江戸時代の鎖国に見ることができ「自給」のモノづくり。モノづくりは、工業だけでなく、農業、林業、水産業、そして「文化」や「心」も網羅する。

そして、浜松には、自立できる素地がある。もてる資源を活かし、「浜松共和国」をつくる意気で都市構想を進めるべき…、というものでした。

「智者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」

ついつい、日々に流されてしまう今日このごろですが、歴史の流れは滔々(とうとう)と私たちを包んでいます。

今日は久しぶりにこの言葉の意味を感じさせてくれました。(経験を否定するわけではありませんよ…^^;) )

新しい文明の発信を、この浜松から！ なんだかワクワクしてきませんか？

おまけ…、それをやっていくためにも「行財政改革」が必要ですね

## 田口のブログ《創ろう！ 元気な浜松》

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>



## 3月の主な活動

- 01(土) 入野中学校区青少年健全育成会総会
- 02(日) 行革審傍聴
- 03(月) 議案調査  
～06(木)
- 07(金) 全員協議会・本会議(代表質問)
- 09(日) 佐鳴湖クリーン作戦  
田端まつり保存会総会
- 10(月) 本会議(代表・一般質問)
- 11(火) 本会議(一般質問)
- 12(水) 環境経済委員会
- 13(木) 文教消防委員会傍聴
- 14(金) 大都市制度調査特別委員会  
行財政改革推進特別委員会傍聴
- 16(日) 自治会総会  
浜松市水防団長受賞記念式
- 18(火) 入野中学校卒業式
- 19(水) 入野小学校卒業式
- 21(金) 全員協議会・本会議(最終日)
- 22(土) 入野保育園卒園式  
交通安全協会入野分会総会
- 23(日) 静岡文化芸術大学セミナー  
自治会総会
- 26(水) 鈴親会総会
- 27(木) 新人議員研修会(中央卸売市場)  
入野地区自治会連合会期末総会
- 29(土) 自治会総会
- 30(日) 入野地区組風揚げ会会所開き  
自治会総会
- 31(月) 同友会経済サミット

## 4月の主な予定

- 01(火) 入野地区自治会長会議
- 04(金) 静岡市議会議員との情報交換会
- 05(土) 入野保育園入園式
- 06(日) 自治会総会
- 07(月) 入野小・入野中 入学式  
放課後児童会入会式
- 09(水) 西区議員懇談会
- 11(金) 議会改革推進シンポジウム(三重)
- 13(日) 自治会総会
- 16(水) 浅野史郎氏(元宮城県知事)講演会
- 18(金) 岡本護静岡県議後援会総会
- 21(月) 新人議員研修会
- 27(日) 浜松地区メーデー

### 【編集後記】

3月は卒業式、4月は入学式。さすががしさを感ずる人生の節目の時期ですね。

満開の桜の中、新年度がスタートしました。毎年、この時期になると新入社員時代を思い出します。

初心を忘れず、謙虚に、まじめに、一生懸命ガンバります。(章)